

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第2章 パート1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録は二つの点で他の書と違っています。

一つ目は、ご存知の通り、これを朗読する者とそれを聞く者に祝福が約束されている事。聖書の中でこの約束があるのは黙示録だけです。

この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。(黙示録 1:3)

二つ目は、私の知る限り、黙示録だけが時系列を含んでいて、神が定めた順序が記されている事。それにより、この書は理解しやすく、且つ、簡単に記憶できるようになっています。この、神が定めた順序をはっきりと記録しておきましょう。

黙示録 1:19 で、イエス・キリストはこの書の著者ヨハネに言いました。

「そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。」(黙示録 1:19)

これで、黙示録が 3 部構成になっていることがわかります。

「あなたの見た事」とは、前回まで学んできた黙示録 1 章で与えられたイエスの黙示です。

「今ある事」とは、今現在ある事で、2章-3章のイエス・キリストからアジアにある七つの教会への七つのメッセージです。

この七つの教会は歴史上の全ての教会を表しているので、黙示録 2章-3章は歴代の全教会に該当します。

2章-3章の教会史を過ぎたら、次は「この後に起こる事」で4章から最後の22章まで。

「この後」とは、教会史の後。最後の一人が救われてキリストの体に加えられ、教会史が完了した時。ギリシャ語で「メタ タルタ」

4章は、まさにこの言葉で幕が開かれています。

その後（メタ タルタ）、私は見た。見よ。天に一つの開いた門があった。（黙示録 4:1）

4章-5章で教会は、突然、天国の中に登場します。

流れがつかめましたか。

「あなたの見た事」は黙示録 1章。栄光を帯びたイエスの黙示。

「今ある事」は2章-3章。教会史。

教会史が完了すると「この後に起こる事」。4章-5章で教会、つまり皆さんと私は天国に入ります。

しかし、その頃、6章-19章では、地上に取り残された人たち、即ち主に心を開かなかった人たちが、大患難に直面することになるのです。

この6章-19章の恐ろしい期間の描写には、大変重要な目的があります。

大患難の目的。

第1は不信者を揺さぶる事。

私たちが主と7年間のハネムーンを過ごすために、無事に天国に挙げられている間、この地上では、福音を信じなかった人々が7年間の大患難の間に揺さぶられ、その多くがイエス・キリストに心を開いて彼を受け入れるのです。

第2は国 - イスラエル国家 - を目覚めさせる事。

神はイスラエルを捨ててはおられない。

神が契約の民イスラエルに持つておられる美しい計画を、6章-19章で明確に見ることができます。

第3はこれが最終的な目的ですが、千年王国が建て上げられる事。

単に不信者を揺さぶり、イスラエルを目覚めさせるためではなく、このために、主は6章-19章の大患難という、罪が洗い清められるプロセスを準備しておられるのです。

19章が終わり 20章で千年王国が確立し、イエスが地上に戻って来られますが、これを再臨と言います。この時、私たちも主と一緒に戻って来ます。

そして、イエスはエルサレムに王座を設け、千年の間、あの聖なる都で王国を支配します。

私たちは、主と共に王国を統治するために遣わされるのです。

この 20 章での平安と繁栄に満ちた千年の間、サタンは縛られ、底知れぬ所に閉じ込められてしまいます。

しかし、千年の最後に、サタンは再び暫くの間、解き放たれます。

それは、千年王国で生まれた人々に、イエス・キリストに従い続けるか背くか、各自で決める機会を与えるためです。

その結果、信じ難いことですが、残念なことに、愚かなことに、多くの人々が、実はイエス・キリストに背くのです。

これが最後の反逆となり、彼らは落とされ、サタンは火の池に投げ込まれて、永遠にそこに留まることとなります。

最後 21 章-22 章では新しい天と新しい地があり、私たちはそこで永遠に幸せに生きます。

とてもわかり易い書ですよ。本当にわかり易い。

1 章は栄光を帯びたキリストの黙示。

2 章-3 章は教会史。

教会史が完了すると、4 章-5 章で教会は天に上げられ（携挙）、その間この地上では 6 章-19 章の大患難。

それには目的が幾つかあって、第 1 は不信者を揺さぶるため。

第 2 はイスラエル国家を目覚めさせるため。

第 3 は千年王国を建設するため。

大患難後 20 章で、私たちは千年王国が建国されるのを見、サタンは千年の間、縛られて底知れぬ所に閉じ込められる。その後、暫くの間解き放たれ、それから火の池、外の暗闇、永遠の地獄に投げ込まれる。

最後の 21 章-22 章の新しい天と新しい地で、私たちは永遠に幸せに生きるのです。

これでおしまい。そうです。皆さん、この書は全然難しくないのです。

ということで私たちは第 2 部に入りました。

黙示録の第 2 部、「今ある事」、教会史についてです。

登場する七つの教会は、1 章で見た通り、アジアの教会ですが、アジアというのは台湾や韓国、ベトナムではなくて、今のトルコのことです。

これらの教会は、教会史の七つの段階を表すために、具体的に選ばれているのです。

さて、イエスから七つの教会に宛てられたそれぞれの手紙には四つの対象があります。

一つ目は特定の地域。

これら七つの教会は現トルコに実在したものであるという事。

二つ目は教会。

教会に興味や関心のある人、教会に関わる人は、誰もがこの手紙を熱心に学ぶべきです。この手紙には、私たちが直面するあらゆる問題や困難に関する事が書かれており、教会として私たちがどうあるべきか、何を見据えるべきかについて、非常に多くの教訓を習得することができるからです。

三つ目は各個人、あなた自身。

イエスは、それぞれの手紙の最後に、「耳のある者は御霊の言われることを聞きなさい。」と記しました。耳がある人全員がこれを受け止めるべきです。

「耳のある者は」これは、あなたに直接言われているのです。

四つ目は預言。

前にも話したように、これら七つの教会は、教会史の始まりから完成、つまり携挙までに現わされていく、連続する七つの段階を意味しています。

1996年現在、ここに書かれている内容の大半は、過去のものになりました。

現在はもう、教会史の最後の段階だからです。

今の時の私たちには、これらのことが過去に実際に起こったのを見て、歴史となっていることがわかりますが、ヨハネがこのメッセージを与えられた時は、まだこれらのことは起こっておらず、預言だったのです。

前回の学びでイエスの黙示を細かく見ていきましたが、イエスはそれぞれの手紙に、私たちが 1 章で学んだ彼の黙示を部分的に取り上げ、それを一つずつ七つの教会に割り当てるということを繰り返しています。

主が用いられた部分、例えば「わたしは死んだが、今は生きている。」「わたしは燃える炎のような目をしている。」「口からは鋭い両刃の剣が出ている。」などの黙示は、各教会が置かれていた状況に、パズルのピースのように当てはまっていました。だから教会は、イエスの確かな側面を聞き、見る必要があったのです。

私に興味をそそられた事は、私たちが全体像を知るための唯一の方法は、教会を全面的に受け入れるという事です。

キリストの体の各部分は、キリストの人格、本質を部分的に表しており、クリスチャン、つまり教会は、彼の本質の一部であるという事が明らかになります。
だから、私は、「主よ、私はあなたの満ち満ちた豊かさを体験し、御子の全貌を知りたいです。父よ、これらのクリスチャンを分断したり、見捨てたりしないように私を助けて下さい。」と祈る必要があるのです。

さて、次へ行きましょう。第2章。

ここに書かれている町の名前も、メッセージやその土地の問題をピッタリ表していて驚きです。

「エペソ」とは、ダーリンという意味で、ロマンチックな愛を示します。

これがこれから見ていく教会の問題なのです。面白いですね。

エペソにある教会の御使いに書き送れ。(黙示録 2:1)

「御使い」で使われている言葉「ANGELOUS」は、メッセンジャー、牧師やリーダーのことです。

エペソ教会は使徒パウロによって創設されました。(使徒の働き 19章)

パウロはエペソの町に行き、信者たちと会いましたが、この人たちは何かがおかしい。

パウロは彼らを見て、聖霊の力が欠けていることに気付きました。

ご存知の通り、聖霊の実は「愛」で、聖霊の力は「アガペ」。

使徒 19章で、パウロは「あなたたちは信じた時に聖霊を受けましたか?」「本当に聖霊に満たされましたか?」言い換えると、「聖霊の洗礼を受けましたか?」「クリスチャンになってから聖霊を受け入れましたか?」と尋ねました。

彼らの答えは「聖霊ってナニ?」

パウロは言いました。「聖霊について聞いたこともなくて、どうやって洗礼を受けたのですか?」洗礼を授ける時は、父と子と聖霊の御名によって授けるのに、どのようにやったのか。彼らは「バプテスマのヨハネの洗礼を受けたのだ。」と。

パウロは「それはただ、道を備えるためのものだ!」

このように彼らは福音を知りませんでした。だからパウロは福音全般について説明し、彼らが聖霊の力を受けるように祈ったのです。彼は2年間そこに留まって教えました。

以上が、これから学ぶ内容の背景です。

エペソ教会は、まず聖霊の力が欠けている。何か間違っている。愛がない。

それで彼は2年間毎日、ツラノの講堂で教えました。

パウロは、エルサレムに向かう時、このエペソの兄弟たちに二度と会うことはないとわかっ

ていたので、彼らを集めて言いました。

「私が去った後、あなたがた自身の中から、貪欲な狼が出てくるでしょう。どうか、この2年間、夜も昼も、私が涙と共に訓戒してきたことを思い出して下さい。

惑わす者たちが現れるから。」(使徒 20 章)

確かにそれらは現れました。

つづく。

万軍の主は誓って仰せられた。

「必ず、わたしの考えたとおりに事は成り、わたしの計ったとおりに成就する。」

(イザヤ書 14:24)